

を展開しています。「日本博」は、関係府省庁や地方公共団体、文化施設、民間団体等の関係者の総力を結集し、縄文時代から現代まで続く日本の美を各分野にわたって体系的に展開していく大型プロジェクトです。「日本人と自然」という総合テーマの下に、各地域が誇る様々な文化資源を年間通じて体系的に創成・展開するとともに、国内外への戦略的広報を推進し、文化による国家ブランディングの強化、観光インバウンドの飛躍的・持続的拡充を図ります。

平成31年3月に「旗揚げ式」を開催し、当日は、「日本博」ロゴマークの発表や文部科学大臣による開幕宣言などを行いました。



「日本博」旗揚げ式の様子（国立劇場大劇場）

第4節 舞台芸術活動等の推進

1 舞台芸術等の創造活動への効果的な支援

我が国の文化芸術の振興を図るため、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、大衆芸能といった分野の芸術水準の向上の直接的な牽引力となる公演を重点的に支援するとともに、各分野の特性に配慮した創造活動を推進しています。平成30年度は、年間活動支援型36団体、公演事業支援型153件を支援しました。

また、「戦略的芸術文化創造推進事業」として、芸術団体等からの企画提案を受けて行う実演芸術の水準向上のための取組や、障害者の優れた芸術活動の調査研究や海外への発信等を58件実施しました。

2 芸術文化振興基金

芸術文化振興基金は、文化芸術活動に対する援助を継続的・安定的に行うため、平成2年に設立され、政府から出資された541億円と民間からの寄附金約140億円の計約681億円を原資としています。運用益は、各種文化芸術活動への日本芸術文化振興会が行う助成事業に充てています。寄附金の受付は随時行っており、芸術文化振興基金の拡充に努めています。

〈芸術文化振興基金からの助成額（平成30年度）〉

- 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動：6億5,528万円
- 地域の文化振興を目的として行う活動：2億3,921万円
- 文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動：9,245万円

3 新進芸術家等の人材育成

世界で活躍する新進芸術家等を育成するため、美術、音楽、舞踊、演劇などの分野において研修・発表の機会を提供しています。特に、「新進芸術家海外研修制度」では、昭和42年以来、新進芸術家等が海外の大学や芸術団体などで研修を受け、これまで多数の優秀な芸術家などを輩出しています（図表6）。

図表6 新進芸術家海外研修制度のこれまでの派遣者の例

奥谷 博	美術：洋画 昭和42年度
森下 洋子	舞踊：バレエ 昭和50年度
絹谷 幸二	美術：洋画 昭和52年度
佐藤しのぶ	音楽：声楽 昭和59年度
野田 秀樹	演劇：演出 平成4年度
諏訪内晶子	音楽：器楽 平成6年度
野村 萬斎	演劇：狂言師 平成6年度
崔 洋一	映画：監督 平成8年度
鴻上 尚史	演劇：演出 平成9年度
平山 素子	舞踊：モダンダンス 平成13年度
酒井 健治	音楽：作曲 平成16年度
長塚 圭史	演劇：演出 平成20年度
田中 功起	美術：現代美術 平成21年度
萩原 麻未	音楽：ピアノ 平成21年度

4 文化庁芸術祭の開催

文化庁は、昭和21年度から毎年秋に「文化庁芸術祭」を開催しています。平成30年度は、オープニング公演として「通し狂言 平家女護島」を上演したほか、オペラ、バレエ、演劇、音楽、能楽、文楽、舞踊・邦楽、舞踊、大衆芸能、アジア・太平洋地域の芸能等の11の主催公演を実施しました。

また、演劇、音楽、舞踊、大衆芸能の参加公演部門には168件、テレビ、ラジオ、レコードの参加作品部門には118件が参加しました。各部門における審査の結果、優れた公演・作品に対して、文部科学大臣から芸術祭各賞が授与されました。



平成30年度「文化庁芸術祭」主催公演
国立劇場オープニング公演「通し狂言 平家女護島」
二幕目 鬼界ヶ島の場 俊寛僧都：中村芝翫